

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。★ご希望があれば、他の研究対象者の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

<p>＜研究課題名＞</p> <p>円錐角膜に対する 角膜クロスリンキングの術後 1 年成績の研究</p>
<p>＜研究機関・研究責任者名＞</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院 眼科（研究責任者）原 雄将</p>
<p>＜研究期間＞</p> <p>承認日～令和 5（西暦 2023）年 12 月 31 日</p>
<p>＜研究の目的と意義＞</p> <p>円錐角膜は思春期頃に発症し、角膜の中央が何らかの原因で薄くなり突出する病気で、そのため視力低下を進行性に来します。円錐角膜に対して当科では角膜に紫外線を照射する角膜クロスリンキングという治療をしております。その治療の効果を研究することで進行を抑えることにつなげます。</p>
<p>＜利用する試料・情報の項目＞</p> <p>診療記録より、年齢、性別、視力、角膜屈折力、角膜厚、角膜形状解析データ画像の情報を使用いたします。</p>
<p>＜対象となる方＞</p> <p>西暦 2020 年 2 月～西暦 2021 年 12 月の期間に眼科で角膜クロスリンキングの治療を開始された方 当院では手術時に 14 歳未満の方、角膜中央の厚みがかなり薄く（400μm 以下）なってしまっている方 妊娠、授乳中の方などは対象にはなりません。</p>

<研究の方法>

角膜クロスリンキングとは 2003 年にドイツのドレスデン大学で開発された治療で、角膜にリボフラビンという薬を点眼し、薬がよく染み込んだところに紫外線を照射するという方法です。これによって角膜が変形しにくくなり、円錐角膜の進行がとまる治療です。この治療には角膜の 1 番外側に位置し、バリアの働きを持つ上皮を剥がす方法と剥がさない方法があります。剥がす方法はバリアを除去する分よく効くとされていますが、手術後 2, 3 日程度痛みが強いです。剥がさない方法では痛みは少ないですが効果が剥がす方法より弱いとされていました。最近、紫外線を眼に照射する前に点眼するお薬が改良されて効果が改善されてきました。そこで今回我々は剥がさない方法の手術を受けた患者さんの手術後の視力、角膜のカーブ形状、屈折力を測定して、その効果を研究します。また、きくな湯田眼科の上皮を剥がす方法の効果と比較する予定です。

<外部への試料・情報の提供の方法>

きくな湯田眼科との他施設共同研究ですが当院で施行を受けた患者様の情報が他院から漏洩されることはありません。

Ver.2106

<研究組織>

きくな湯田眼科（神奈川県横浜市港北区菊名 4-3-11）

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1）

眼科 氏名：原 雄将

電話：03-3972-8111 内線：（医局）（PHS）8312

青字は記載上の注意事項や記載例ですので、記載後は削除して、余白をつめてください。